

基づいた耐性遺伝子の形成によるものです。確率としては100万から1億個の菌細胞に1個の耐性遺伝子が形成されます。極めて低い確率にみえますが、100万～1億の菌細胞集団を形成するのは、たった20～30回程度の分裂で達成されますので、耐性結核菌の出現は必然と考えておく必要があります。新規薬剤についても、いずれ耐性菌が出現することは間違いありません。

他の細菌感染症と比較した場合、結核における耐性菌対策は極めて入念と言えます。つまり、複数の薬剤を十分な期間投与し、第三者の直接観察に基づいた服薬管理がなされています。そこまでして、なんとか耐性結核菌の増加を食い止めている状況です。

WHOのGlobal Tuberculosis Report 2022では、新規発生患者からのリファンピシン単独あるいはリファンピシンおよびイソニアジド二剤耐性株の分離率は3.6%程度で、2015年と大きな変化はありませんでした。しかしながら、中央アジアおよび東ヨーロッパにはこれらの耐性率が顕著に高い国々が存在します。また、戦禍によって結核対策が停滞している国々があるこ

とも容易に想像できます。一方で、新規の抗結核薬の開発が進行し、多剤耐性結核に対する治療法も確立しつつあります。しかしながら、耐性菌の国際的な拡散、さらには国内への侵入頻度の高まりには警戒が必要である状況には変わりありません。

### 終わりに

結核においては受診・診断の遅れが、結核患者増加につながることはよく知られた事実です。「結核は、早期発見・早期診断が大切です。」(2022年厚労省の結核啓発ポスター <https://www.mhlw.go.jp/content/000990713.pdf>) というキーワードは、今も最も重要なメッセージとなります。また、感染症は国際的な人の移動が大きなインパクトを与えることも、忘れてはなりません。入国前結核スクリーニングが着実に実施されることを期待します。加えて、我が国がこの数十年努力した「経験」を現在も結核に悩む諸外国に輸出することも重要と考えています。若い方々には積極的に海外の結核対策に貢献してもらうことを期待します。

## お知らせ

### 感染症情報

#### 所管課よりお知らせ

※ 新型コロナウイルス感染症関連の対応の為、当分の間週報の還元を休止させていただきます。申し訳ございませんが、ご了承の程よろしくお願い致します。

なお、沖縄県感染症情報センターでも沖縄県の感染症情報を更新しておりますのでご確認下さいませよう、宜しくお願い致します。

【 <https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html> 】

